

「尾上真秀10歳、母子で初舞台に懸ける夢」寺島しのぶ

婦人公論

Fujinkoron

820yen

No.1595 2023 May

5

お金の不安でうつを発症。
生活を一新するまで
小山明子

〈特集〉物価高騰に負けない！
豊かな暮らしは
「上手に使って切る」から

売れない頃から仲良しで

井上順 ×

加藤茶

上手に撮るコツ

スマホ写真講座

〈野菜と調味料がカギ〉
「食品ロス」を
なくそう

〈型紙なしで簡単〉
タンスに眠る
着物をリメイク

五木寛之

無理に
手放さなくていい



人生の最期をどう迎えるか。 「リビング・ウィル」の意義を知る

誰もが直面する人生の最終段階。大切な人やあなた自身がよりよい最期を迎えるためには、どんな準備をすればよいのでしょうか。全12回の連載でその指針をお伝えします。

判断を迫られ、迷いで最期を迎える家族

いつか来る、自分の最期のとき。どんな医療を受け、どんな準備をすればよいのか。そんなことを「突然」と考えなくてはならないと思いませんか。なかにはご家族に「延命治療は受けたくない」と希望された方もいらっしゃるでしょう。ただしその「いざ」が現実になったとき、自分の思いが叶えられるかという、思ってもみずにはありませぬ、意識がない状況下では、治療方針の判断をするのは、ご家族とご本人以外になるケースが多いからなのです。

医師から「もう回復する見込みはない」と告げられたとき、延命措置をするのか、しないのか、家族は「命の決断」を迫られます。本人の意思をはっきり示した文書がない場合、家族は判断に迷い、葛藤するかもしれません。その結果、本人が望まない治療が続いてしまう可能性があります。日本尊厳死協会の理事で、本人の意思を尊重した準備をする取組のアドバイザーなどを数多く発信している「小さな灯台プロジェクト」の責任者・近藤和子さんは、看護職としても看取りの現場を数多く

望まない治療が続いてしまう可能性があります。日本尊厳死協会の理事で、本人の意思を尊重した準備をする取組のアドバイザーなどを数多く発信している「小さな灯台プロジェクト」の責任者・近藤和子さんは、看護職としても看取りの現場を数多く

く見てきました。『どのような最期を希望するか、時間をかけて夫婦や家族で話し合い、互いが納得する形で生きたいという方はたくさんいらっしゃいます。しかし一方で、回復の見込みのない患者の医療をめぐり、ご家族がもめるケースも後を絶ちません。たとえばご家族のおひとりごとが「お母さんは延命治療を望んでいなかったし、自然にさせてあげようよ」と言っても、別の家族が医師に対し、「大切な母です。どんな形になっても生かしてください」と生命維持を希望する。こうして本人の意に沿わない延命措置がなされてしまうケースが、実は少

のが日本尊厳死協会の「リビング・ウィル」です。

「リビング・ウィル」とは、もしものときにどのような医療やケアを選択するか、意思表示をしておく、事前に自分の意思を明確にするための文書のことです。ご家族も迷いや葛藤から解放されるでしょう。近藤さん、なお「リビング・ウィル」は、回復を目的とする救命を拒むものではないとされています。あくまで、本人の意思に基づき、死期を引き延ばすための医療措置を受けず、自然の経過のまま受け入れる死が尊厳死です。一方、「安楽死」は、耐えがたい苦痛を持つ人の要請により、医師が直接薬物を投与、あるいは医師が処方した致死薬を患者自身が体内に入れた結果の死で、現在日本では認められていません。

「リビング・ウィル」は、回復を目的とする救命を拒むものではないとされています。あくまで、本人の意思に基づき、死期を引き延ばすための医療措置を受けず、自然の経過のまま受け入れる死が尊厳死です。一方、「安楽死」は、耐えがたい苦痛を持つ人の要請により、医師が直接薬物を投与、あるいは医師が処方した致死薬を患者自身が体内に入れた結果の死で、現在日本では認められていません。

「リビング・ウィル」

「尊厳死」とは、確やかに自分らしく生き、尊厳を持ってやすらかな最期を迎えることを意味します。たとえば、慢性的な病状が進行している場合や、意識のない状態が長く続いた場合、本人の意思に基づき、死期を引き延ばすための医療措置を受けず、自然の経過のまま受け入れる死が尊厳死です。一方、「安楽死」は、耐えがたい苦痛を持つ人の要請により、医師が直接薬物を投与、あるいは医師が処方した致死薬を患者自身が体内に入れた結果の死で、現在日本では認められていません。

死は、いつなんどき訪れるかわかりませんが、だからこそ、できるだけ早い段階から「尊厳死」や「リビング・ウィル」についての知識や情報を得ておきたいもの。知ることで考えが整理され、未来への指針も立てやすくなります。そこで役立つのが、設立から半世紀近い歴史をもち、公益法人として社会的にも信用を得ている日本尊厳死協会です。看取りの実体験や終末期の知識・情報を発信している「小さな灯台プロジェクト」のウェブサイトはわかりやすく、参考にしやすいでしょう。

よりよく生きるためにできること

◆公益財団法人 日本尊厳死協会
会員になると日本尊厳死協会発行の「リビング・ウィル」と会員登録が発行されるほか、年4回発行の会報誌や無料講演会のお知らせ、尊厳死を認めている医師の情報などが得られます。

◆小さな灯台プロジェクト
大切な人の終末期の医療の選択とその意思決定を支援するための情報拠点となるサイト。「看取り」のエピソードや、知っておくと役立つ終末期医療に関する具体的な情報を多数掲載

<https://songenshi-yokai.or.jp/>
お問い合わせは公益財団法人 日本尊厳死協会内線03-3818-8563

<https://songenshi-yokai.or.jp/lighthouse/>
お問い合わせは公益財団法人 日本尊厳死協会内線03-3818-8563